

平成29年 3月吉日

ご契約先ご担当者様

株式会社日本保安
代表取締役社長 青柳 秀夫

万引対策国際会議のご報告

拝啓 春暖の候、貴社ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

先日、東京ビッグサイトにて開催されました「万引対策国際会議2017」に協賛・参加しました。

参考事例・情報などを下記に記載し、ご報告申し上げます。

「万引対策専門」に26年目を迎え、更に皆様にお役に立てるよう精進致します。

敬具

記

1. 大量盗難被害情報の共有

①ご承知の通り、大量盗難被害は、「突然・大量に・甚大な被害」となります。

②犯人は業種・業態毎に狙う商品が特定される傾向があるとのことです。

③米国などでは「企業特定情報」を除き、「盗難被害情報」のみを共有し、防犯に役立てています。

※日本チェーンドラッグストア協会などでは「防犯情報」を共有しています。

2. 転売ルートの確保が簡単になっている。

①インターネットの環境が発達し、転売などが簡単になっています。

②大手企業(ヤフー)では盗品転売防止対策があり、捜査当局などとも連携しております。

③「ネットフリマ」(インターネットのフリーマーケット版)などで簡単に転売ができます。

3. 万引犯罪発生状況:警察庁犯罪統計資料より

①全犯罪の認知件数は低下傾向にありますが、万引犯罪の占める割合は増加傾向です。

②万引犯罪の年齢層も未成年者(約15%)の件数を高齢者(約37%)が完全に上回りました。

③万引再犯者の比率も昭和48年度は約35%が平成27年度は50%を超えました。

4. 顔認証システムの活用

①常習者、大量窃盗犯人などの顔画像を登録し、入店時に知らせるシステムがあります。

②捕まった万引犯人が「初犯者」を装い、軽い罪で逃れようとするのを防止します。

③現状は企業の本部にて登録画像を管理し、各店舗へ警戒情報を発信しています。

※防犯機器と私服警備員の連携が必要になりつつあります。

5. 『盗難被害情報』共有のご提案

①3月度被害商品傾向:入園・入学関連品(衣類・小物)、記念品(地球儀)、粉ミルク、化粧品など

②「大量盗難被害」情報を共有させて頂き、「私服警備員」に捕捉排除、各店舗様で警戒注意などのお役に立ちたいと考えます。

③『盗難被害情報』共有内容と方法など

お電話・FAX・メールなどでご連絡下さい。メールにて各企業・店舗様にご連絡致します。

TEL 043-226-1722 Fax 043-226-1728 E-mail security-scramble@nihon-hoan.co.jp

『盗難被害情報』共有内容

発生日: 月 日 曜日	発生時間: 時 分 頃
地域: 県 市・町	
対象カテゴリー:「医薬品」「化粧品」「ベビー用品」「雑貨」「食品」「医療機器」「健康食品」 「酒類」「粉ミルク」「書籍」「その他」	
商品名:	
被害数量:	
被害金額:	
犯人の特徴:	
報告先・登録メールアドレス:	

春風とともに、皆様にお幸せが訪れますよう心からお祈り申し上げます。

以上